

第 1 回 国際博覧会大阪誘致構想検討会概要

(開催要領)

1 開催日時：平成 27 年 4 月 28 日 10 時 30 分から 12 時

2 場 所：大阪府庁本館 5 階 特別会議室大

3 出席委員等

<行政>

植田 大阪府 副知事

九鬼 大阪府市長会・大阪府町村長会 事務局長

内藤 大阪市 政策企画室理事

澤田 堺市市長公室長企画部長

<経済界>

児玉 大阪商工会議所 常務理事・事務局長

阿部 関西経済連合会 理事

齊藤 関西経済同友会 常任幹事・事務局長

<有識者>

佐野 国際日本文化研究センター准教授

田口 情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター副研究センター長

中牧 国立民族学博物館 名誉教授、吹田市立博物館 館長

橋爪 大阪府立大学特別教授、21 世紀科学研究機観光産業戦略研究所 所長

(議事次第)

1 開 会

2 議 事

(1) 検討会と最近の国際博覧会の動向について

(2) 意見交換

3 閉 会

(配付資料)

資 料 1 : 国際博覧会大阪誘致構想検討会設置要綱

資 料 2 : 国際博覧会について

資 料 3 : 検討会実施スケジュール(案)(2025 年開催ケース)

資 料 4 : 開催都市のテーマ、決定経過等

(概要)

1 開会

- ・ 植田副知事あいさつ
- ・ 座長に橋爪委員が選出

2 議事

議題1 検討会と最近の国際博覧会の動向について

- ・ これからの検討にあたって本検討会で共有しておくべき情報として、国際博覧会、検討会実施スケジュール、過去開催都市のテーマ・決定経過等について、資料1から4に基づき、事務局より説明し、意見交換を行った。委員から出された意見は以下の通り。

<意見概要>

○阿部委員

1970年万博での「人類の進歩と調和」というテーマと開催されていた中味は、今の時点では、21世紀型としてそぐわないのか。もし、そぐわないのであれば、テーマや全体の企画について何を改善すべきなのか。

○事務局 露口副理事

1970年万博が今の考え方とリンクしていない部分としている部分がある。そういうところも含めて、過去の大阪万博でのテーマ、今のBIEでの決議などを総合的に考えて、今後、大阪が何を発信し、何を貢献していくのかなどについて、ご意見をいただければと考えている。

○阿部委員

愛知万博はロボティクスのイメージを持っている。21世紀型の万博についての説明とロボティクスという愛知万博の中味をどう理解したらいいのか。

○橋爪座長

ヨーロッパで始まった万博博覧会は、科学技術の進歩によって産業も進み、人類は先に進むんだというものであった。それに対して、70年万博では、進歩するだけではだめだということで、調和という概念を加えた。これは非常に先見性のあるもので、

今の 21 世紀型博覧会を先取りしたアイデアを示した。

愛知万博は、産業技術というのは根幹になるものなので、新しいテクノロジーをもって、人類が抱える課題をいかに解決していくのかを示した新しい万博だった。

先ほどの説明でいうと、従来の 20 世紀型は、結果をみせる博覧会であり、21 世紀型はこれからどれくらい可能性があるのか、出発点となるもの。

議題 2 意見交換

<意見概要>

○橋爪座長

次回からは、開催意義・テーマについて、有識者の先生方からプレゼンテーションを予定。具体的な提案は次回以降にお聞かせいただくこととし、本日は、これからの検討にあたって、それぞれの有識者委員の先生方がお持ちの万博に対する思いなどについて、順番に自由にご発言をいただきたい。

○中牧委員

ちょうど 50 年前に開催されたニューヨーク世界博覧会が私の万博の初体験であり、70 年万博を経て、1977 年に国立民族博物館が開館し、そこで朝晩、太陽の塔を眺めながら 35 年間務めた。主に日本の宗教や会社、暦などの研究や、「日本の祭りと芸能」というお祭り広場につながるような展示を担当した。

N I R A（総合研究開発機構）というシンクタンクで理事を務めた際には、2つの課題を追及した。1つは、文化都市政策として、クリエイティブシティという考え方で都市を活性化するプロジェクト。もう1つは、「2010 年代、世界の不安、日本の課題」という未来研究を行った。世界の政治や経済、自然環境などの問題をブレークダウンして、未来年表などを作り、「2010 年代はこういう世界になる」、「こういう不安を抱えた世界になる」ということを予測し、それに対して「どういう手を打ったらいいだろうか」というような政策研究を行った。

2010 年上海万博では、都市文化政策や 2010 年代の中国のプレゼンスに関して、上海万博から何がキャッチできるかを、日本と中国の学者 25 名近くを組織し、3 年間、上海万博のビフォア アンド アフターも含めて調査をした。上海万博以降は日文研における万博研究のメンバーとして研究をしている。

万博とは 50 年近く付き合ってきたので、どうぞ、よろしく願いたい。

○田口委員

国際博覧会は、人類的な課題を解決するという理念ができていますので、それに沿った

課題の検討が大事なんじゃないか。日本的な課題としては、少子高齢化社会にどう対応するのか。暗いイメージではなく、お年寄りだけじゃなく、いろんな方が楽しく、大阪ですから笑いながら、楽しく生きられる社会生活。それを実現するには単に新製品、新技術だけでは駄目であり、地域をどう設計するかとか、そういうことまで含めた提案が、大阪から、そして日本から出るようなものとなればいい。少子高齢化は日本だけの課題ではない。人生を全うするまで楽しく生きられるような仕組みのようなものを、産業界を交えながら、検討できたらいいんじゃないかと思っている。

それから、私の専門は「脳」の研究をしているので、心の問題が大事になる。単に新製品やロボットをつくるということだけではなく、「人間同士、心はどうやったら繋がるのか」。

「心が繋がる社会」というのは重要なテーマ。検討の中で、産業界や地域の自治体の方々と協力して新しい生活を提示できるような万博だったら、やる意義があるんじゃないかと思う。

○佐野委員

外交史・文化交流史の研究の中で、万博は私の軸にあり、国際日本文化研究センターでも「万国博覧会と人間の歴史」という共同研究プロジェクトを主宰している。研究会では、第一線の研究者から万博の現場をプロデュースなさった方々までが一緒になって議論をしているが、そこで日々、実感するのは、万博というのは、人文科学系から工学系に至るあらゆる分野、社会のあらゆる職業の人が、同じ土俵で議論できるものということ。

70年万博を知っている世代の思いは強いが、私は、「大阪万博を直接、知らない世代」であり、そのことを強みにしていきたいと考えている。とりわけ、70年万博があった大阪で、万博提案がなされるとすれば、70年万博に思いを持っていらっしゃる方の思いを大切にしながら、それを乗り越えるというか、いろいろな意味で70年万博との関係を考えなければならない。他方で、社会の実働層の半分の人が70年万博を知っていて、半分が知らないというタイミングであり、そうした人々が一緒になって万博を考えられるというのは、なんと面白いタイミングであろうかと思っている。

「何が新しい万博か」という話が出ているが、「西洋が始めたことを私たちも出来るようになりました」というのが大阪万博までだった。今度は、これからの世界のあり方を、同じ万博というツールで見せてみてこそ、世界史的な意義がある。元々普遍的なスポーツというものをやっているオリンピックとはまた違う意義を持たせることができると思う。大阪にとっての意義、日本にとっての意義が、同時に世界的な意義ともなる「WIN」「WIN」関係を目指す。今回の検討は、そういったものを考える、素晴らしい機会ではないかと思う。

○橋爪座長

本日ご欠席の山崎委員からも、「万博について思うこと」について、メッセージをお預かりしているので紹介する。

(山崎委員メッセージ概要)

国際博覧会が「公衆の教育」（国際博覧会条約第1条）を目的とし、社会課題を解決するために人々が使える手段や活動における進歩や将来の展望を示すことが大切なら、「人々」自身が活動して来場者に体感してもらう機会を設けてはどうか。

世界でも早い時期に人口減少を経験し、政府の財源が逼迫することを経験した日本だからこそ、社会課題を市民参加で解決していくんだという気概を示す必要がある。

なかでも大阪は官都である東京とは違い、いわば「民都」と呼んでもいいほど活発な市民活動が存在する地域である。市民や府民が自ら示す「手段や活動」をどれだけ体験してもらうことができるかが重要になるのではないか。

国際博覧会終了後に何を残すのかについても、パビリオンを残したり敷地を開発したりするだけでなく、関わった人々の組織や事業が継承されることに期待したい。

大阪で国際博覧会が行われたからこそ、その後の大阪のまちづくりが加速したと言われるくらいの変化を生み出したい。そこには東京オリンピックを「お手伝いする」ボランティアスタッフとは違うほどの主体性が必要になるだろう。

○橋爪座長

国際博覧会条約（参考資料2）の第一条に、国際博覧会とは、「文明の必要とするものに応ずるために、人類が利用することのできる手段、または人類の活動の一もしくは二以上の部門において達成された進歩もしくは若しくはそれらの部門における将来の展望を示すものをいう」との定義があり、これからの検討において、「文明」ということが非常に大事なキーワードになる。今後の検討では、「我々はどの分野において、これからどのような文明を築き上げるべきなのか」ということが一番上位の枠組みとなる。例えば、食がテーマとなる場合も、「文明における食の問題」というふうによく課題を掲げてから、具体的な主題や解決策にブレークダウンをしていくこととなる。

世界各国で共通している課題に対して、いかに科学技術、あるいは産業の進歩によってその課題に応じるのかというところがまず掲げられないと、他の国々の心を打つような博覧会にならないのではないか。

また、70年万博の時に、「大阪」が世界的に認知されたと聞いている。梅棹忠夫先生から直接伺ったお話だが、あの時には、海外のホテルの枕元の電話帳に、世界の国の番号の次に「千里」の地名が書いてあったとのことだった。我々これから大阪を元気にしていくために、「国際性」というものをもう一度きっちり掲げなおすことが必要であろうと思う。

さらに、国際博覧会は、新しいアイデアや新しい技術の可能性を示す「ショーケース」

であるということ。各国が競い合い、各企業が「我々はこういうふうを考えているんだ」ということをテーマのもとに示し、競い合う。大阪で行われるであろう国際博覧会は、関西だけでなく、日本が今後伸ばすべき科学技術、あるいは産業の「ショーケース」の役割を果たしていかなければいけないだろう。

最後に、国際博覧会は、「次世代を背負う人材育成の場」であるということ。博覧会は、新しい若い才能がチャレンジする場となる。上海万博で大阪出展のお手伝いをさせていただく中で、中国中の次世代である 20 代、30 代の人たちが様々な仕事、様々な現場に係り、その人たちが今後の上海を担うであり、中国を担う人材が続々と出てくるんだということを申し上げていた。大阪で国際博覧会もう一度可能性があれば、22 世紀に向けて、21 世紀後半を担う人材が次の博覧会からどんどん育っていく、そういうふうな機会になればいい。

○橋爪座長

経済界のみならず、何かご意見があれば、どうぞご発言いただきたい。

○児玉委員

日本、あるいは、大阪・関西が、将来、こういう地域や都市になりたいというものがある中で、それを達成していくために、「なぜ、万博がいるのか」というようなことを、仮説でもいっておかないと、国民・府民の納得は得られないだろうと思う。

この検討会の前に、プレの検討をされており、そこでいろいろ意見が出て、「やるべし」という意見に必ずしも一致しなかった中で、なぜ、最短の同じような 2025 年開催ケースでの検討スケジュールを出されているのか。

大阪では、やらなければならないプロジェクトとしていくつか話がでてきている。あるべき姿を実現するために、「あれもいる」、「これもいる」という中で、「万博もいる」ということをきちっと説明していかないと、どんどんプロジェクトだけがでてくるということにならないか。

○事務局 新井政策企画部長

ここは万博の可能性検討会なので、なぜ、大阪で万博が必要なのかという大阪府としての考え方は整理させていただきたい。

開催都市の決定は、B I E で決まるが、立候補のために国家プロジェクトとして位置付けられるためには、「オール大阪でしっかり万博を誘致したいということをいっていただかないといけませんよ」と経済産業省からもいわれている。そう意味では、「大阪で 2 回目の万博が可能であるのか」、「そのためには何が必要であるか」等について、「こういう課題をクリアしなければオール大阪として声を上げることができないのではないか」ということも含めて、忌憚のないご意見をいただけないかと思っている。

あわせて、昨年度、府庁内でフィージビリティの調査を実施し、いろんな角度からの

検討を行った。そこで、「なんで 2025 年開催なのか」とのご意見を外からいただいている。その点も含めて、この検討会では、仮に誘致するとした場合、まず、「最短で開催が可能な 2025 年に大阪で開催することができるのか」、「そのためにはどういう課題があるのか」等について、「そうでなければどうしたらいいのか」等も含めて、最終的にはオール大阪での決断ということになるので、そのための材料としての議論をこの検討会で進めていただきたい。

この場で決定するという事ではないので、そのところはよろしくお願ひしたい。

○阿部委員

到達点ではなく、出発点だということであるので、「何の出発点に立つのか」について、いろんなご意見を頂戴したい。

また、半年間の期間を終えたときに、単に跡地活用や何万人が来られたということではなくて、半年間の万博を通じて、次の何がみえてきたのか、次のどういう技術開発につながるものがみえてきたとか、そういった大きな実証実験のようなものがあればいいと思う。

私どもは企業を構成団体とする経済団体なので、今は、やることとなったから企業協力をという時代ではなく、企業の方が本当に関心やニーズをもてるようなテーマ設定が必要と考えている。

今後、つめられていく資金計画やフィージビリティと理想的な理想とがあってこないこととなると思うので、その辺を両睨みでご検討いただけたらと思う。

○齊藤委員

日常性をつきぬけるような、わくわくする万博の理念をきちんとした専門家がつくっていただければ、開催の可能性があるのではないかと思う。

問題は、フィージビリティとしてどうなのか。理念だけでなく、お金、国の支援体制、そして、大阪府の覚悟とか、いろんなことを総合的に検討しないと、開催の是非を簡単には述べられない。

あと、国内での他地域での動きと五輪と万博はどちらが魅力的なのかを教えてほしい。五輪では大阪の企業もスポンサー契約を結んでいるところもある。愛知万博では、トヨタが相当、協力をしたと思うが、愛知万博の時の各企業、あるいは地元・議会・国のそれぞれの役割も教えてほしい。

こういったものをお示しいただいて、議論の参考にさせていただきたい。

○事務局 新井政策企画部長

開催することは可能か、開催するときはどういう課題があるかということは、必ずしもテーマや考え方だけではなく、資金の面でも非常に大きな問題がある。

そのため、府民アンケートや企業からのヒアリング等もさせていただく予定。山崎委

員からのメッセージにもあった「いかに府民の方々を含めて主体性をもって新しい万博をつくるのか」といったことや、例えば、愛知万博において、資金も含めて、企業や県民の方々がどういう協力体制をとり、どういうことを分かち合ったのか。あるいは、その結果がどう結びついていっているのか。一発型のイベントではなくて、それが大阪の発展にどのようにつながっていくのかなどの視点も必要かと思う。

私どもで用意できる資料やデータはこれからも用意させていただきたい。

3 閉会（終了）